

# 『感情の歴史』に連なる先行シリーズ

**身体の歴史**(全3巻)  
 A・コルバン＋J・J・クルティエヌ＋G・ヴィガレロ監修  
 小倉孝誠・鷺見洋一・岑村傑監訳 第47回日本翻訳出版文化賞受賞  
 A 5上製 (口絵カラー 16-48頁) 各 7480円

**I 16-18世紀** ルネサンスから啓蒙時代まで  
 ジョルジュ・ヴィガレロ編(鷺見洋一監訳)  
 656頁・カラー口絵 48頁◇ 978-4-89434-732-8

**II 19世紀** フランス革命から第1次世界大戦まで  
 アラン・コルバン編(小倉孝誠監訳)  
 504頁・カラー口絵 32頁 ◇ 978-4-89434-747-2

**III 20世紀** まなごしの変容  
 ジャン=ジャック・クルティエヌ編(岑村傑監訳)  
 624頁・カラー口絵 16頁 ◇ 978-4-89434-759-5



**男らしさの歴史**(全3巻)  
 A・コルバン＋J・J・クルティエヌ＋G・ヴィガレロ監修  
 小倉孝誠・鷺見洋一・岑村傑監訳  
 A 5上製 (口絵カラー 16-48頁) 各 9680円

**I 男らしさの創出**—古代から啓蒙時代まで  
 ジョルジュ・ヴィガレロ編(鷺見洋一監訳)  
 792頁・カラー口絵 48頁◇ 978-4-86578-097-0

**II 男らしさの勝利**—19世紀  
 アラン・コルバン編(小倉孝誠監訳)  
 664頁・カラー口絵 32頁 ◇ 978-4-86578-120-5

**III 男らしさの危機**—20-21世紀  
 ジャン=ジャック・クルティエヌ編(岑村傑監訳)  
 752頁・カラー口絵 16頁 ◇ 978-4-86578-131-1



## “感性の歴史家”アラン・コルバン関係書

### アラン・コルバン単著

『**においの歴史** (嗅覚と社会的想像力)』  
 山田登世子・鹿島茂訳  
 A 5上製 400頁 5390円 ◇ 978-4-938661-16-8

『**浜辺の誕生** (海と人間の系譜学)』福井和美訳  
 A 5上製 760頁 9460円 ◇ 978-4-938661-61-8

『**時間・欲望・恐怖** (歴史学と感覚の人類学)』  
 小倉孝誠・野村正人・小倉和子訳  
 四六上製 392頁 4510円 ◇ 978-4-938661-77-9

『**人喰いの村**』石井洋二郎・石井啓子訳  
 四六上製 272頁 3080円 ◇ 978-4-89434-069-5

『**記録を残さなかった男の歴史** (ある木靴職人の世界 1798-1876)』渡辺響子訳  
 四六上製 432頁 3960円 ◇ 978-4-89434-148-7

『**感性の歴史家 アラン・コルバン**』小倉和子訳  
 四六上製 304頁 3080円 ◇ 978-4-89434-259-0

『**風景と人間**』小倉孝誠訳  
 四六変上製 200頁 2420円 ◇ 978-4-89434-289-7

『**空と海**』小倉孝誠訳  
 四六変上製 208頁 2420円 ◇ 978-4-89434-560-7

『**レジャーの誕生** (新版) ④⑤』渡辺響子訳  
 A 5並製 ④ 272頁・口絵 8頁⑤ 304頁 各 3080円  
 ④◇ 978-4-89434-766-3 ⑤◇ 978-4-89434-767-0

『**娼婦** (新版) ④⑤』  
 杉村和子監訳 山田登世子解説  
 A 5並製 ④ 304頁・口絵 16頁⑤ 352頁 各 3520円  
 ④◇ 978-4-89434-768-7 ⑤◇ 978-4-89434-769-4

『**快樂の歴史**』尾河直哉訳  
 A 5上製 608頁・口絵 8頁 7480円  
 ◇ 978-4-89434-824-0

『**英雄はいかに作られてきたか** (フランスの歴史から見る)』小倉孝誠監訳 梅澤礼・小池美穂訳  
 四六変上製 256頁 2420円 ◇ 978-4-89434-957-5

『**知識欲の誕生** (ある小さな村の講演会 1895-96)』  
 築山和也訳  
 四六変上製 208頁 2200円 ◇ 978-4-89434-993-3

『**処女崇拜の系譜**』山田登世子・小倉孝誠訳  
 四六変上製 224頁・口絵 8頁 2420円  
 ◇ 978-4-86578-177-9

『**静寂と沈黙の歴史** (ルネサンスから現代まで)』  
 小倉孝誠・中川真知子訳  
 四六変上製 224頁・口絵 8頁 2860円  
 ◇ 978-4-86578-199-1

### アラン・コルバン編著・共著・関係書

『**キリスト教の歴史**』A・コルバン編  
 浜名優美監訳 藤本拓也・渡辺優訳  
 A 5上製 536頁 5280円 ◇ 978-4-89434-742-7

『**感性の歴史**』  
 L・フェーヴル、G・デュビィ、A・コルバン  
 小倉孝誠編 大久保康明・小倉孝誠・坂口哲啓訳  
 四六上製 336頁 3960円 ◇ 978-4-89434-070-1

『**世界で一番美しい愛の歴史**』  
 J・ル＝ゴフ、A・コルバン他  
 小倉孝誠・後平隆・後平滯子訳  
 四六上製 272頁 3080円 ◇ 978-4-89434-425-9

『**民俗学と歴史学** (網野善彦、アラン・コルバンとの対話)』  
 A・コルバン・網野善彦・二宮宏之・赤坂憲雄  
 四六上製 240頁 3080円 ◇ 978-4-89434-554-6

『**身体はどう変わってきたか** (16世紀から現代まで)』小倉孝誠／鷺見洋一／岑村傑  
 図版多数 四六上製 320頁 2680円  
 ◇ 978-4-89434-999-5

## ◎注文書 (FAX 03-5272-0450 藤原書店)

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523 TEL 03-5272-0301 / http://www.fujiwara-shoten.co.jp / info@fujiwara-shoten.co.jp  
 ご注文は、近隣の便利な小売書店までお申し込み下さい

※価格は税込み価格

<p>■注文 感情の歴史 (全3巻) [ ] セット I [ ] 冊 II [ ] 冊 III [ ] 冊</p> <p>_____ [ ] 冊 _____ [ ] 冊</p> <p>_____ [ ] 冊 _____ [ ] 冊</p>	お申込み書店 (帳合・番線)
<p>■お名前</p> <p>■ご住所 (郵便番号)</p> <p>■お電話番号</p> <p>■E-mail</p>	

藤原書店創立 30周年記念出版

# 感情の歴史

(全3巻)

A・コルバン＋J・J・クルティエヌ＋G・ヴィガレロ監修  
 小倉孝誠・片木智年監訳

A5上製 680～848頁 (口絵カラー 24～32頁) 各巻 9,680円

HISTOIRE DES ÉMOTIONS



『**身体の歴史**』『**男らしさの歴史**』で、歴史学に新たな領野を切り拓いてきた三部作の完結編  
**心性史を継承するアナール派の到達点**

《原書への絶賛書評》

- ◆「感情資本主義」、「感情の共同体」など現代思想の諸問題と切り結ぶ歴史学の一大成果。  
 — *Etudes, Benoît Heilbrunn*
- ◆しばしば他者の目に隠蔽されてきた感情の冒険をめぐる壮大な体系化。  
 — *La Libre Belgique, Eric de Bellefroid*
- ◆斬新なテーマに関する先駆的な試み。多様性、独創性、創造性は称賛に値する。  
 — *Le Figaro Histoire, Eric Mension-Rigau*
- ◆広大な心性史の領域に新たな礎石を据える。— *Livres-Hebdo, S.J.R*
- ◆画一化の進む現代、感情がどのように表現され、秘められてきたかを歴史的に探る。  
 — *Page des libraires, Sarah Castel*
- ◆古代の怒り、中世の宮廷恋愛、革命期の暴力、ロマン主義時代の涙と喜び……感性と情念は時代によって異なる表現をもつ。— *Sciences humaine, Martine Fournier*

藤原書店

東京都新宿区早稲田鶴巻町523 tel. 03-5272-0301 fax. 03-5272-0450 info@fujiwara-shoten.co.jp

## 各巻の構成

### 第Ⅰ巻 古代から啓蒙の時代まで

ジョルジュ・ヴィガレロ編（片木智年監訳）

第Ⅰ巻では、ギリシア時代のアキレウスの涙とリジストラータの笑いの問題から始まり、絵画における微笑みの誕生を論じる啓蒙時代までを扱う。読者はキリスト教の情動や、中世の修道院と家庭の状況を概観し、王侯貴族の怒りがどのようなものだったかを知ることになる。宮廷文化、体液の力学、神秘主義者たちの情念、メランコリーの快きと苦痛、モンテーニュに見られる友情の喜び、騎士たちの名誉規範、そしてもちろん民衆の強い感情などが論じられている。

#### 総序

##### I 古代

1 ギリシア人／2 ローマ世界

##### II 中世

3 ゲルマン人の時代／4 中世初期／5 「心を動かす」と「心の動き」——中世における「感情」という語の考史的考察／6 中世における感情——理性の時代／7 感情についての日常的表現と医学的用例／8 中世ヨーロッパにおける救済の情念／9 家族と感情的関係／10 十四世紀から十五世紀における宮廷人の政治的感情

##### III 近代

11 「感情」という言葉の出現／12 ルネサンスにおける感情の修辭学——モンテーニュの例／13 喜び、悲しみ、恐れ……——古典期における体液の働き／14 内面の自己監視という発明／15 神秘体験における魂の変容と情動／16 集団的感情吐露と政治的なもの／17 名誉、親密な空間から政治的なものまで／18 勇ましい心と優しい心——近代における友愛と恋愛／19 メランコリー／20 法の語るもの——奪う、騙す、犯す／21 実験的感情——十七世紀フランスにおける演劇と悲劇 情動、感覚、情念／22 バロック時代における音楽の感情／23 感情、情念、情動——古典主義時代の芸術理論における表現／24 ほほ笑み

### 第Ⅱ巻 啓蒙の時代から十九世紀末まで

アラン・コルバン編（小倉孝誠監訳）

第Ⅱ巻では、啓蒙の時代から、感情の歴史の豊かな部分を示してくれる。18世紀、繊細な魂という概念が形成され、「気象学的な自我」が誕生する。革命の時代である19世紀、政治の舞台では怒り、恐怖、憤怒の情が興奮、喜び、熱狂、メランコリーと並存した。バリケードから戦場まで、大規模な狩猟から自然災害まで、ロマン主義から印象主義まで、オーガスムの興奮から聖母マリア崇拜まで、多様な感情の様態が本書で明らかにされる。

#### I 序論

##### 一七三〇年から革命後まで

1 感受性の強い魂の目覚め／2 個人の感情と天候／3 自然の光景を前にして／4 気象と集合的情動／5 政治的情動——フランス革命

##### II 革命後から一八八〇年代まで

6 死刑台を前にして——苦痛の光景から教育の舞台へ／7 「私」と魂の気圧計／8 欲望と快楽のかたち、失望そして不安／9 感じやすい魂から感情の科学的出現へ——私的領域における感情の濃密化／10 軍事的熱狂と戦争の暴力／11 大型獣狩猟の時代／12 賛同への熱狂——政治的感情の新しい形態／13 抗議の感情／14 宗教的感情の刷新／15 舞台芸術がもたらす新たな感情／16 「私の魂のうえに奏せられるヴァイオリンの弓のような」——風景を前にした個人

### 第Ⅲ巻 十九世紀末から現代まで

ジャン＝ジャック・クルティエヌ編（小倉孝誠監訳）

終わりつつある19世紀は「繊細な人間」を発明し、戦争の喧騒がとどろき、革命の熱狂が響きわたるのを耳にした。やがて新たな時代が幕を開ける。個人にも集団にも、いたるところで感情の支配が広がっていく。情愛、感情、情念、さらには倒錯や狂気。魂の未知の動きが主体の制御から逃れ、群衆は奇妙な情動に感染し、新たな知がそれらを読み解こうとする。第Ⅲ巻では、その後現代人のものとなったさまざまな感情のシステムが探索される。

#### I 序論

##### 感情を考える

1 人類学の言説／2 科学のほうへ——心理学、生理学、神経生物学／3 感情の資本主義／4 怒り、共感、市民としての情熱——感情をめぐる政治生活／5 ジェンダーと歴史——恥辱の例

##### II 一般的な感情の生成

6 覚醒の時代——子供時代、家族、学校／7 社会参加する——政治、事件、世代／8 動物への情愛／9 感情的な熱狂——驚きと失望のあいだで揺れる旅／10 「荒地」——自然にたいする感情の変化

##### III トラウマ——極限的な感情と激しい暴力

11 戦争の悪夢／12 強制収容所の世界——それでもやはり情動は存在する／13 民族大虐殺者は殺す時に何を感じるのか／14 壁と涙——亡命者、移住者、移民／15 身体の崩壊——病と死を前にして

##### IV 感情の機制と情動の系譜

16 不安の時代における恐怖心／17 うつという症例／18 屈辱感——墮落させる、貶める、破壊する／19 共感、世話、同情——人道主義的な感情／20 愛、誘惑、欲望

##### V 感情のスペクタクル

21 芸術への愛のために／22 暗闇のなかで笑い、泣き、怖がる／23 スポーツの情熱／24 感情の演劇性／25 音楽を聴くこと／26 テレビ画面——情動の大きな実験室

## 『感情の歴史』の監修者たち

### ジョルジュ・ヴィガレロ (Georges Vigarello)

1941年モナコ生。パリ第5大学教授、社会科学高等研究院局長。身体表象にかんする著作があるが、とりわけ『矯正された身体』『健全と不健全』『太目の変容。肥満の歴史』『古代競技からスポーツ・ショウまで』（以上、スイユ社）『清潔（きれい）になる「私」』（邦訳、同文館出版）『強姦の歴史』（邦訳、作品社）『美人の歴史』（邦訳、藤原書店）など。『身体の歴史』（全3巻）のうち『I 16-18世紀 ルネサンスから啓蒙時代まで』を『男らしさの歴史』（全3巻）の『I 男らしさの創出——古代から啓蒙時代まで』を編集。



### ジャン＝ジャック・クルティエヌ (Jean-Jacques Courtine)

1946年アルジェ（アルジェリア）生。15年間アメリカ合衆国で、とりわけカリフォルニア大学サンタ・バーバラ校で教える。パリ第3大学文化人類学教授を経て名誉教授。言語学・談話分析、身体の歴史人類学。著書に『政治談話の分析』（ラルース社）など。エルネスト・マルタンの『奇形の歴史』（1880年）を復刊（J・ミロン社）。『身体の歴史』（全3巻）の『III 20世紀 まなざしの変容』を、『男らしさの歴史』（全3巻）の『III 男らしさの危機？——20-21世紀』を編集。



### アラン・コルバン (Alain Corbin)

1936年フランス・オルヌ県生。カーン大学卒業後、歴史の教授資格取得（1959年）。リセで教えた後、フランソワ・ラブレー大学教授として現代史を担当（1972-1986）。1987年よりパリ第1大学教授。現在は同名誉教授。著書に『娼婦』『においの歴史』『浜辺の誕生』『時間・欲望・恐怖』『人喰いの村』『感性の歴史』『音の風景』『風景と人間』『空と海』『快楽の歴史』（以上邦訳、藤原書店）など。『身体の歴史』（全3巻）の『II 19世紀 フランス革命から第1次世界大戦まで』を、『男らしさの歴史』（全3巻）の『II 男らしさの勝利——19世紀』を編集。

## 『感情の歴史』とは何か——「総序」より

——感情は人類の属性であり、人類とともに存在してきた。それが何か人は気づくし、理解できる。感情はあまりに明白なので、時間に関係と思われるほどだ。さまざまな時代と場所に等しく観察され、共通した体験や一見したところ共有される反応があることを示唆している。たとえば大切な人の死に臨んで感じる苦しみ、何らかの危険の後の混乱、失敗したときの苦渋、楽しいことがあるときに感じる喜び、などである。これらはすべて一般的な出来事であり、普遍的なものや永久不変なものがそこに見出される。興奮、不安、歓喜が文化と社会を活気づけ、汗、不快感あるいは震えがその避けがたい表われを示す。

——恐怖、恥辱、怒り、喜びはおそらくいつの時代にも観察されるし、ひとつの時代から別の時代になっても理解され、「把握される」ように思われるが、じつは個人によって、文化によって、感受性によって異なるのだ。これらの感情には独自の状態と変遷があり、変化し、個別化し、一般的に広く存在するとはいえ細分化された可能性を示す。

——悲しみ、喜び、怒り、恐怖などの感情が存在したことを頭から疑うわけではなく、これらの感情の一般的な性質に異を唱えるわけでもない。変化したのはむしろ感情の意味、そのかたち、濃淡、程度であり、その違いはきわめて重要だ。

——感情の歴史的な多様性、濃淡、変化は何よりもまず文化と時代の反映だということである。感情は状況に対応し、感受性の輪郭に合致し、生活様式と存在様式を表現するし、この様式そのものが情動とその程度を方向づける個別的で特定の環境に左右される。——『感情の歴史』は、『身体の歴史』『男らしさの歴史』と続いてきたシリーズの掉尾をかざる。

——身体、男らしさ、そして感情。これらの対象の性質を見れば、おそらくこの計画の意義も把握されるだろう。つまり個人、その身体的存在、性的な刻印、感情生活に関する物質的、感覚的な系譜学という観点から、かつて心性史によって拓かれた道を継承しようとしたのである。

——計画の中心にあるのは歴史的な見方だ。分析の角度を多様化し、それまで気づかれなかった世界を発掘し、感情が無視されてきたところにも一貫性があることを明らかにする。

——感情の歴史はこうして、西洋人の意識における心的空間のゆるやかな構築をめぐる歴史に接合される。感情の歴史は内面性の果てしない変化を示す。そしてこの点は強調すべきだが、感情の歴史は方法論上の明白な結果を求める。

アラン・コルバン＋ジャン＝ジャック・クルティエヌ＋ジョルジュ・ヴィガレロ（小倉孝誠 訳、構成・編集部）